

## 【めん羊】能力に関する目標数値

- 3ヶ月齢が一般的な離乳時期であることから、評価時期を4ヶ月齢から「90日齢」に変更して設定。
- 離乳時体重に影響を及ぼす母羊の年齢及び分娩・哺育型を補正した子羊の離乳時補正体重は、母羊の能力の異なりを比較評価できるため、更新を行うための指標として有用と考えられる。
- そのため、子羊の離乳時補正体重の計算法や各係数等を明記した上で、農家において離乳時体重が最も大きくなる母羊の年齢「5歳」、「単子分娩・一子ほ育型」を基準（補正係数1.00）とした離乳時補正体重の現状値を算出し、これを基に目標を設定。

## 離乳時(90日齢)補正体重の計算法

$$90日齢補正体重 = 生時体重 + \frac{(\text{測定体重} - \text{生時体重})}{\text{測定日齢}} \times 90 \times (\text{母羊の年齢の補正係数}) \times (\text{分娩・ほ育型の補正係数})$$

## 母羊の年齢、分娩・ほ育型の違いを補正する係数

要因	補正係数	
母羊の年齢	2才	1.08
	3才	1.01
	4才	1.00
	5才	1.00
	6才	1.03
	7才	1.08
	分娩・ほ育型	単子・一子
単子・二子		1.10
双子・一子		1.08
双子・二子		1.19
三子・一子		1.09
三子・二子		1.24
三子・三子		1.37

※補正係数：北海道立畜産試験場（(地独)北海道立総合研究機構）で生産された子羊のデータを用い、母羊5才、単子分娩・一子ほ育型を基準（1.00）として作成。

	90日齢時体重	
	雄	雌
現状値 (平成25年)	30kg	26kg

(注1)サフォーク種のものである。

(注2)現状値：(公社)畜産技術協会より(雄:88頭、雌:112頭のフィールドデータを用い、90日齢時体重に換算した値に、母羊が「5才」、「単子分娩・一子哺育型」を基準(1.00)として評価

## &lt;補正係数を用いた90日齢時体重の評価方法&gt;

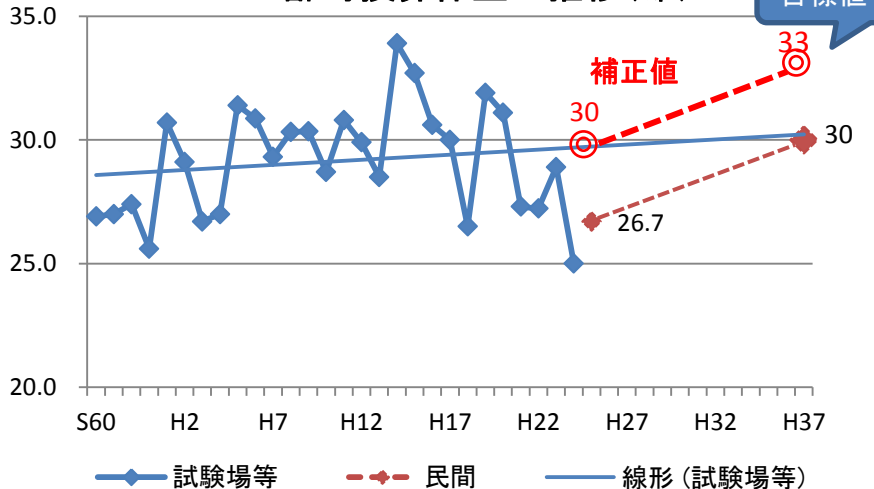
2才、双子分娩・二子ほ育型の母羊から産まれた25kgの雄の子羊

$$25\text{kg} \times 1.08 \times 1.19 \doteq 32\text{kg} \quad > \text{現状値} : 30\text{kg}$$

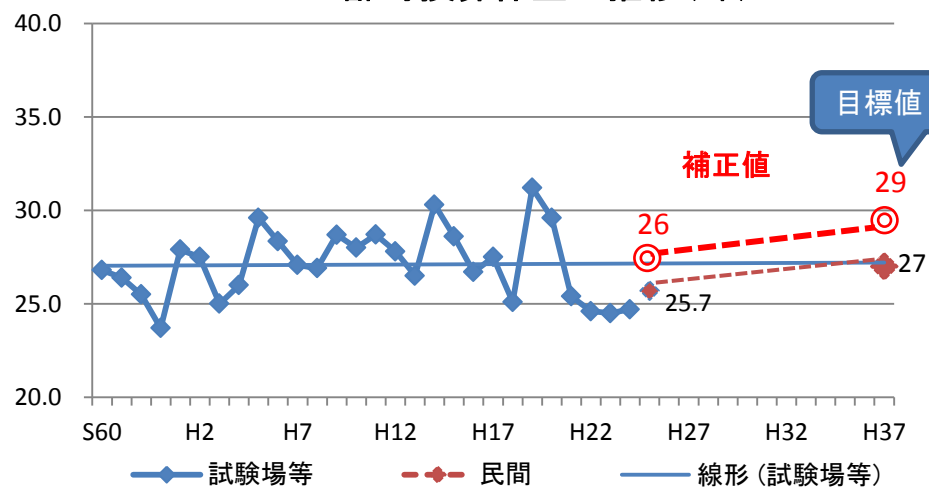
# 【めん羊】能力に関する目標数値

- 子羊について試験場等のフィールドデータを90日齢時に換算した体重の推移は、雄ではやや増加、雌はほぼ横ばい傾向。
- 目標値はフィールドや家畜改良センターのデータを踏まえると1割程度の向上は可能とみられることから、「母羊5歳」、「単子分娩・一子ほ育型」の補正値を1割向上させた水準で設定。
- 単子及び双子で生まれた子羊が全体の9割を占めており、平成25年度において平均産子数は1.8頭、平均離乳頭数は1.4頭であることから、1腹あたり離乳頭数の目標については現行の目標水準(1.5頭)を維持。

### 90日齢時換算体重の推移(雄)



### 90日齢時換算体重の推移(雌)

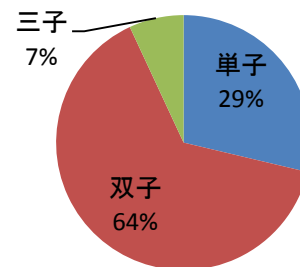


資料:(独)家畜改良センター十勝牧場及び岩手牧場並びに北海道立畜産試験場((地独)北海道立総合研究機構)成績  
(岩手牧場は平成9年まで、十勝牧場は平成16年まで)

	90日齢時体重		1腹あたり離乳頭数
	雄	雌	
現状 (平成25年度)	30kg	26kg	1.4頭
目標 (平成37年度)	33kg	29kg	1.5頭

※90日齢時体重:フィールドにおけるデータを、母羊5才、単子分娩・一子ほ育型を基準とした補正値を用いて算出した体重。

### 子羊における産子数別割合 (平成25年度)



# 【山羊】能力に関する目標数値

- 250日換算乳量は向上しているものの、目標値を下回っており、468kg（250日換算）。一方、山羊の育種素材提供をしている（独）家畜改良センターにおける成績は631kg（250日換算）。
- 乳量の目標値については、現状値を維持（現状よりも1日当たり乳量は+0.5kg増）とする。
- なお、乳成分については、チーズなどへの山羊乳加工への取組がみられることを踏まえ、「乳成分の維持・向上に努める」ことを目標として追記。

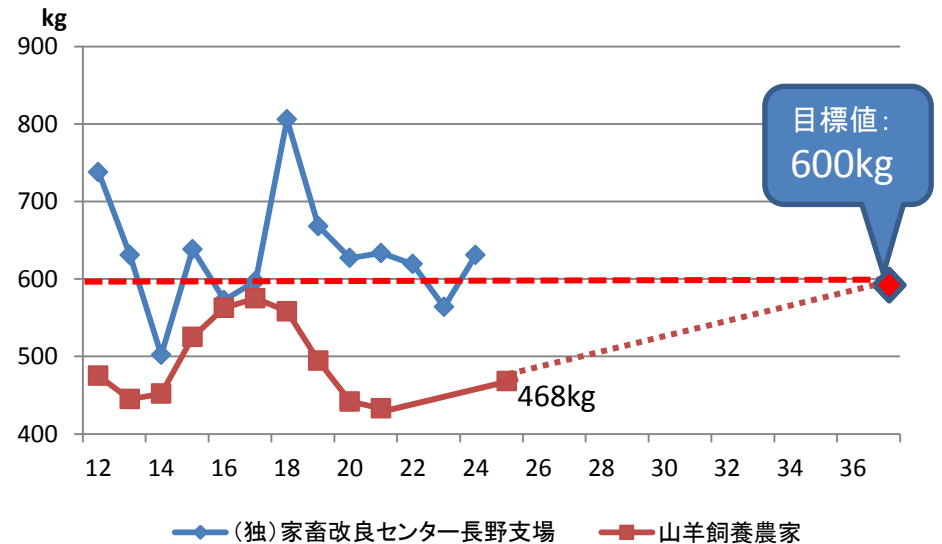
## 能力に関する目標数値

	総乳量 (250日換算)	(参考) 1日あたり乳量	(参考)
第9次策定時 (平成21年度)	433kg	1.7kg	633kg
現状	468kg	1.9kg	631kg
目標 (平成32年度)	600kg	2.4kg	

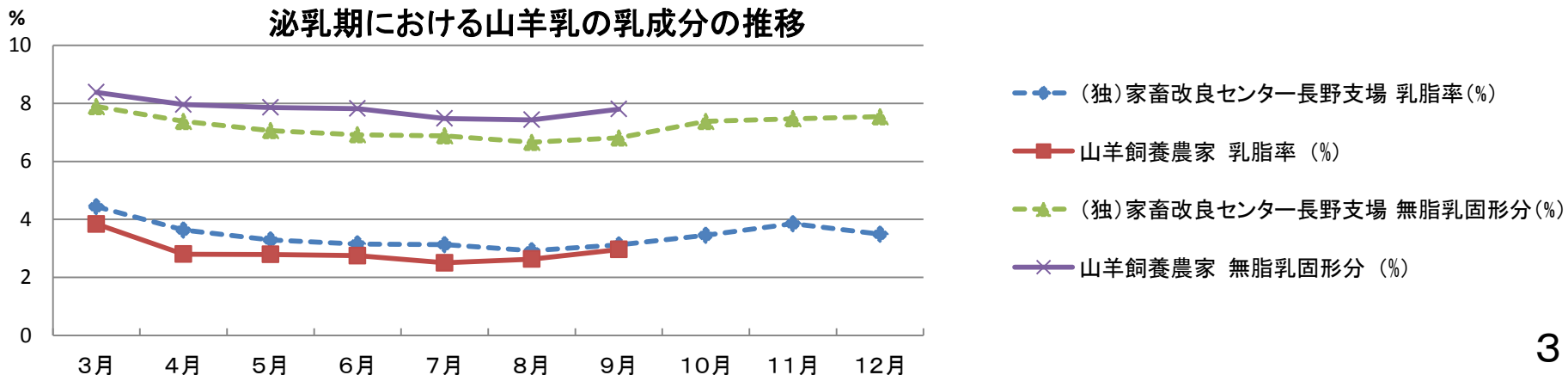
注1) ザーネン種のものである。

注2) 現状値は、産次、分娩後日数、1日当たり乳量を基に泌乳期間を250日換算して算出したもの(平成26年)

注3) 参考値は、家畜改良センター長野支場における成績(平成24年)



## 泌乳期における山羊乳の乳成分の推移



# 【参考】日本綿羊研究会、全国山羊サミットの開催

- 日本綿羊研究会事務局は、めん羊に関する研究成果の発表や関係者の情報交換の場として「日本綿羊研究会」を開催。飼養管理面と耕作放棄地での放牧に関するテーマについての研究発表や、共進会・現地視察もあわせて実施されている。
- 全国山羊ネットワーク事務局は、山羊愛好家の交流と情報交換の場として毎年「全国山羊サミット」を開催。今年は、「心を育み、食を支え、環境を守るヤギ飼育」をテーマに、教育現場や中山間地域等における多様な利活用の現場での事例報告が行われた。

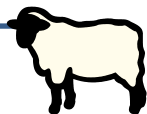
## 第59回研究会の主な内容(2014年10月24日、兵庫県神戸市)

### 【基調講演】

- 神戸市六甲山牧場の紹介

### 【研究発表】

- 放牧経験の有無が耕作放棄地に直接導入された雌羊の群行動に及ぼす影響
- 粗飼料主体によるサフォーク種のホゲット生産評価



## 第16回サミットの主な内容(2014年10月11～12日、山形県鶴岡市)

- アジア・オーストララシア乳用山羊学会の現況と日本の役割
- ヤギ飼養を介した「子どものこころ育ち」に関わる教育実践
- 河川・堤防野草の粗飼料化への取り組み
- 中山間地域活性化のためのヤギ飼養
- 観光としてのヤギ飼養と6次産業化への取組
- 衛生管理とヤギ飼養



## 第58回研究会の主な内容(2013年10月12日、北海道士別市)

### 【基調講演】

- サフォークランド士別市の歩み

### 【研究発表】

- 赤ワイン粕を給与したヒツジの養分消化率および窒素利用
- リンゴ粕混合サイレーズ給与がラム肉の生産性及び食味評価に及ぼす影響
- 耕作放棄地における羊の放牧による野生鳥獣出没状況の変化

## <過去に開催されたサミット>

第14回(2012年10月7～8日)神奈川県  
「都市近郊における山羊の活用」

第15回(2013年10月11～13日、広島県)  
「6次産業化にむけたヤギ飼養の展開」